


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章	 都立武蔵村山高等学校 全日制課程		進路	実績	績大	4年制大	26%	短大	5%	専門校	47%	就職	15%	その他	7%	
	地域連携推進モデル校 人権尊重教育推進校 地域と共に夢をカタチに		基	主な部活動 剣道部(都全国予選 ベスト32)、女子バレーボール部(都ベスト16)、ソフトテニス部(都ベスト8)、吹奏楽部(都コンクール C組金賞)、書道部(都高文連入)												
基本情報	所在地	〒208-0035 武蔵村山市中原一丁目7番地1	電話番号	042-560-1271												
	アクセス	(1) JR青梅線昭島駅北口より立川バスIH行(約25分)武蔵村山高校南下車徒歩5分 (2) 西武拝島線西武立川駅入り口より(同上バス約15分)武蔵村山高校南下車徒歩5分 (3) JR中央線立川北口より立川バス箱根ヶ崎行き(約40分)三ツ木葉師前下車徒歩8分														
本学情報	学科	普通科														
	在籍生徒数	普通科 823名(男子 429人、女子 394人)														
報告	教育課程の特徴	50分6時間授業、習熟度別指導(国語、数学、英語)、少人数指導(英語、家庭)、TT(情報)														
	ホームページ	http://www.musashimurayama-h.metro.tokyo.jp/	自律経営推進予算 31年度(単位:万円)	2,232												
その他	人権尊重教育推進校、パワーアップハイスクール	校 服	制服	男子・ブレザー(紺) 女子・ブレザー(紺)												
	その他	男子生徒及び文化・スポーツ等特別推薦志願者は部活動により差があるが、女子生徒の志願者は回復した。文化・スポーツ等特別推薦実施部:吹奏楽(男女1)、剣道(男女4)、硬式野球(男4)、サッカー(男5)、ソフトテニス(女3)、バレーボール(女2)、ハンドボール(男女3)。														
その他	主な学校行事 体育祭(6月)、文化祭(9月)、修学旅行(12月)、マラソン大会(2月)															

目指す学校 ・「大愛に生きる人であれ」を校訓に、地域とともに生徒を育て、地域社会に貢献できる有為な人材を育成する学校。
 ・地域連携推進モデル校として、地域学校協働推進員を活用しながら、キャリア教育と部活動の充実を目指す。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目標①	① 東京都地域連携推進モデル校として地域連携による教育の推進 ・学校評価に基づき、業務縮減・校務整理に努め、働き方改革を推進していく。 ・キャリア教育への支援、部活動交流支援、地域連携事業協力支援を行う。 ・チーム学校としての可能性について検討する。・人権尊重教育推進校として、五中コミュニティスクールでの連携を行う。	地域連携推進モデル校事業では、武蔵村山市立第八小学校、同市立第五中学校との人権教育や生徒会同士の交流、夏季休業中の学習サポートを実施した。また、地域のNPO法人等によるキャリアサポーターに加え、子育て支援と奉仕活動で生徒の教育支援をしていただくことで、生徒指導と進路指導を強化させた。保護者の学校評価アンケートでは、四段階で3.28ポイントであり、保護者満足度も88%に向上した。人権尊重教育推進校では、がん教育講演会、パラリンピアンによる全校生徒対象講演会を1回、2年国語表現の授業では、高校生の人権メッセージに選択者全員が取組み応募1作品が入賞、生徒会サミットへの参加等を実施した。	
目標②	② 基礎的・基本的な学力の定着と学力向上 ・学力スタンダードに基づき、基礎学力の確実な習得の上に応用力を身に付けることを目指す。 ・各種検定試験を受験させることにより、学習意欲の向上を図る。 ・アクティブ・ラーニングによる授業改善とOJT推進により、組織的な授業力向上を図る。	本校学力スタンダードにおける到達目標に向け、国語・数学・英語について学力調査を実施し、最低目標値をほぼ全員の生徒がクリアした。「生徒による授業評価」では、2学期の全体評価は、1年生88%(±0%)、2年生86%(+1%)、3年生83%(−1%)であった。長期休業期間中の夏季講習は教科19講座を開講した。資格取得指導の成果として、1年生の英検3級以上を受験させた。漢検についても2学年全員受験させた。 各教科を中心として、可能な教員からアクティブ・ラーニングによる授業改善とOJT推進により、組織的な授業力向上を図った。	
目標③	③ 3年間を見通したキャリア教育の構築と生徒の進路実現 ・3年間の統一的計画に基づき、キャリアガイダンスを充実させると共に社会人として持つべき資質を養う。 ・補習等を充実させ大学入試センター試験受験者の増加を図る。高大連携、高専連携を推進し、進学希望の実現に活かす。 ・1年次よりのインターシップを「人間と社会」に組み込み充実させる。	第43期生の進路決定率は94%、270名中255名が進路決定した。日東駒専レベルの大学合格者は2名を出した。センター試験実受験者は7名と昨年度より大きく減少した。AO入試、指定校推薦により大学入学を目指す生徒が大きく増えた。理由としては、次年度に実施予定であった大学入試改革への不安感から「現役」志向が保護者、生徒ともに増えたためである。4年制大学合格者は23大学66名に及んだ。公務員受験者については合格者4名で、昨年度と同数であった。インターシップは公務員関係を中心として、12名が参加した。	

数値目標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	進路決定率	95	86	95	90	90	91	93	94			
目標②	生徒の学校満足度	85	69	75	68	70	68	75	77			
目標③	部活動加入率	91	95	95	96	95	95	95	93			